

1 ビジョンにおいて関西がめざす将来像・目標(2040年度)と「関西チャレンジ」

将来像

「世界の中で輝き、日本の未来を牽引する関西」

「産業を支える多様な人材が活躍する関西」

数値目標

関西（広域経済圏）の経済、産業の国内シェアを25%、GRPを約150兆円*

* GRPについては、2040年度の我が国のGDP推計値に連動。
< 594.7兆円（2040年度のGDP推計値）× 25%（シェア目標値）= 148.7兆円 ≒ 約150兆円 >

- ・ 将来像を3つのめざす姿に焦点化し、その実現に向けた3つの「関西チャレンジ」と取組アイデアを提示
- ・ 構成府県市、経済界、支援機関等の域内の産業振興に取り組む関係機関と共有し、関西全体でめざす将来像の実現と目標達成に向けた取組を推進

2 前回のビジョン会議における経緯(令和6年9月27日 令和6年度「関西広域産業ビジョン」推進会議)

【事務局より】

「関西チャレンジ」に基づき実施する広域産業振興局事業や域内の関係機関の取組など、関西全体としてどういった取組が行われ、どのような効果があったかを測るため、GRPなどの全体的な指標に加え、関西が強みを持つ成長分野である「ライフサイエンス、ヘルスケア」、「グリーンイノベーション、カーボンニュートラル」、「空飛ぶクルマ、MaaS」、さらに、他成長分野も含めた「スタートアップ」、関西経済の土台となる「中小企業の成長」、産業を支える「多様な人材の活躍」の6項目19個の指標を示した、事務案を提示。

3 委員からのご意見

・ 広域連合で実施している事業と事務局から提案のあった各指標の因果関係が必ずしもイコールではないということを前提とした上で、傾向として追っていくことに意義はあるが、モニタリングしやすい指標を追いながらも、関西の特性とか、情報発信の一環として捉えていくべき。

【参考】 令和6年度ビジョン推進会議資料

成し遂げたい関西のチャレンジ		取組分野、項目	関西の現状を把握するための指標		データ収集のイメージ	
関西チャレンジ① 「強みで貢献」 世界共通の課題解決に貢献する、 関西の代名詞とな りうる産業の確立	A ビジネスエコシス テム確立	ライフサイエンス、 ヘルスケア	指標(1) ・国際会議開催件数 (日本政府観光局 国際会議統計) ・輸出入通関額 (財務省貿易統計) ・輸出入比率 (財務省貿易統計、 センサス)	指標(2) 1. 企業、公的機関、大学等における特定目 的の研究費(ライフサイエンス、環境、 エネルギー) ※全国 2. 関連研究機関、拠点等設置状況 3. 関連コンソーシアム設置状況	・ 科学技術研究調査(総務省) ・ 民間データ会社等による調査 ・ 構成府県市照会	
		グリーンイノベー ション、カーボン ニュートラル		指標(3) 1. 大学発ベンチャー数 2. スタートアップ資金調達状況 3. 関連拠点(インキュベーション施設等) 設置状況	・ 産業技術調査(経産省) ・ 民間データ会社等による調査結 果 ・ 構成府県市照会	
		スタートアップ		指標(4) ・ 実証フィールド提供数 ・ 空飛ぶクルマの離着陸場設置状況、 運航状況 ・ MaaS実施状況	・ 構成府県市照会 ・ 民間データ会社等による調査	
B これまでの延長線上 の取組みを超えた ソリューションを創 出	空飛ぶクルマ、 MaaS	指標(5) ・ 1企業あたり付加価値額 ・ 中小企業のデジタル化率 ・ 中小企業向け支援施策実施状況 (相談対応数等)		・ 中小企業白書(中企庁) ・ 中小企業実態基本調査 (中企庁) ・ 民間データ会社等による調査 ・ 構成府県市照会		
関西チャレンジ② 「強みを活用」 現状維持を超え、 高付加価値化(新 展開、深化)による 持続的成長	A 関西の強みを活用・ 応用し、時代が求め る新たな価値を創 造	中小企業の成長				
	B 関西が誇る技術、プ ロダクトを、より多 く、より広く、より深 く提供					
関西チャレンジ③ 「強みを発揮」 競争力強化と魅 力向上による成長 の好循環を通じた、 強みの脈々たる発 揮	A 世界の時流をとらえ、 変化に柔軟に対応 できる産業OSの アップグレード	多様な人材の 活躍		指標(6) ・ 女性、高齢者(65歳以上)有業率 ・ 障がい者実雇用率 ・ 外国人労働者数、留学生数 ・ 副業・兼業の活用状況 ・ 転入出状況	・ 就業構造基本調査(総務省) ・ 障がい者雇用状況(厚労省) ・ 外国人雇用状況(厚労省) ・ 外国人留学生在籍状況調査 (JASSO) ・ 住民基本台帳人口移動報告(総 務省) ・ 民間データ会社等による調査	
	B 産業を支えるチャレ ンジ人材を惹きつ ける、多様な価値観、 生活スタイルに応じ た柔軟な働き方の 実現					

関西の現状を把握するための数値及び取組について

【Ⅰ期】ビジョン策定～万博開催期

■考え方

- ・万博開催前の関西経済の概況を、各基幹統計等を基に捉える。
- ・加えて、万博開催年度で令和7年度中に、万博を契機とした関西の魅力の発信や、経済交流・産業振興等につながる取り組み状況など実態を把握する。

◆ 関西経済の概況

指標	評価内容	抽出期間	出典、把握方法
① GRPの推移	・関西圏のGRPの推移 ・関西圏の全国シェア率	・2020年(コロナ禍)～2024年(万博直前)	関西2府4県GRPの早期推計 No.5 APIR 一般財団法人アジア太平洋研究所 (APIR)
② 輸出額の推移	・関西圏の輸出額の推移 ・関西圏の全国シェア率	・1985～2024年(万博直前)	近畿経済の概要【2025.3】 kinkigaiyou.pdf (近畿経済産業局)
③ 大学発ベンチャー数	・関西圏域の大学発ベンチャー数の推移	・2021年(コロナ禍)～2023年(万博前)	令和6年度産業技術調査事業 大学発ベンチャーの実態などに関する調査 (経済産業省)
④ 地域一体型オープンファクトリー開催数	・2011年以降の開催数の推移 ・全国他エリアとの比較	・2011年～2024年(万博直前)	地域一体型オープンファクトリーの可能性～地場産業の新たなビジネスチャンスの創出と持続可能な発展～ (日本政策投資銀行)
⑤ 転出入状況	・関西圏域転出入の推移 ・関西圏の転出入超過数	・2019～2024年度(万博直前)	第2期関西創生戦略に掲載されているデータ等の最新状況／関西広域連合

◆ 万博を契機とした関西の取り組み

項目	評価内容	抽出期間※開催前後も含む	把握方法、出典
I 関西パビリオン来場者数	・万博を通じて関西の魅力がどれだけの人にPRされたかを把握	万博開催期間 ※抽出のタイミングは広域連合委員会報告時にあわせる	広域連合委員会報告資料参照
II 経済交流・産業振興につながる取り組み	・万博会場内外において、右記の期間どのような経済交流や産業振興につながる取り組みが実施されたかを把握	万博開催期間中 ※今後実施予定のものも含む	各構成府県市企画調整部会を通じて照会

◆ 関西経済の概況

① 関西広域経済圏のGRP

- ◆ コロナ以前からコロナ禍にかけて、全国シェア率19%台を推移しながら、微増。
直近2024年5月の早期予測では、近畿2府4県のみで90兆円を超える予測。

統計データ ※ 1	2019年	2020年	2021年	2040年（目標）
全国シェア率	19.0%	19.2%	19.3%	25%
GRP（兆円）	105.9	102.5	106.6	150

【出典】 県民経済計算（内閣府 経済社会総合研究所）

※1 関西広域連合域内+福井、三重の名目GRP

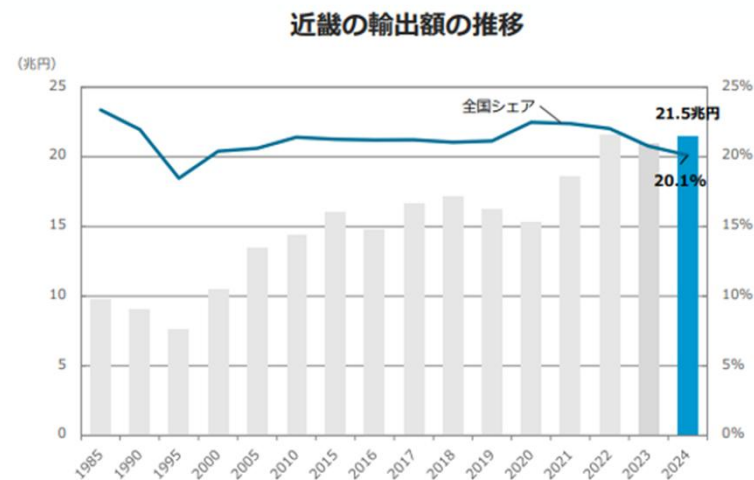
参考データ ※ 2	2021年	2024年（早期予測）
全国シェア率	16.06%	16.24%
実質GRP（兆円）	87.5	91.0

【出典】 関西2府4県GRPの早期推計 No.5 | APIR 一般財団法人アジア太平洋研究所（APIR）

※2 滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山2府4県のみ

② 輸出額の推移

- ◆ 近畿の輸出額は、2024年は2年ぶりに増加し、過去最高となった2022年に次ぐ水準。
一方で、全国シェアについては、減少傾向。



【出典】 近畿経済産業局資料 近畿経済の概要【2025.3】

※滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山2府4県のみ

◆ 関西経済の概況

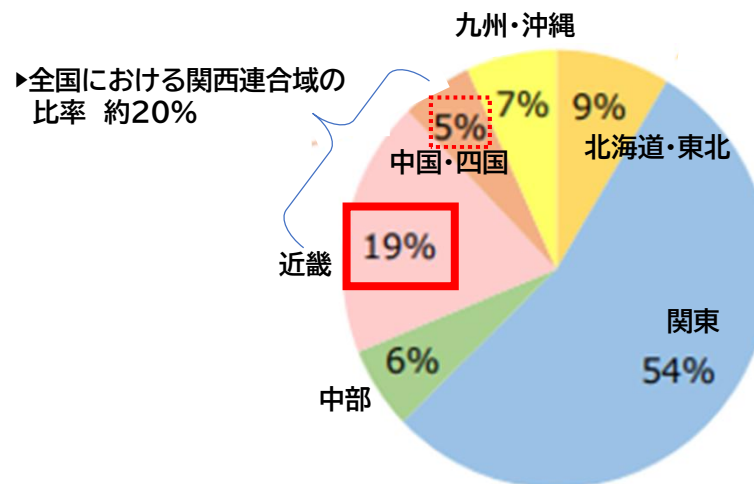
③ 大学発スタートアップの推移

◆ 前年度比について、近畿が123%と全国で最も高い。

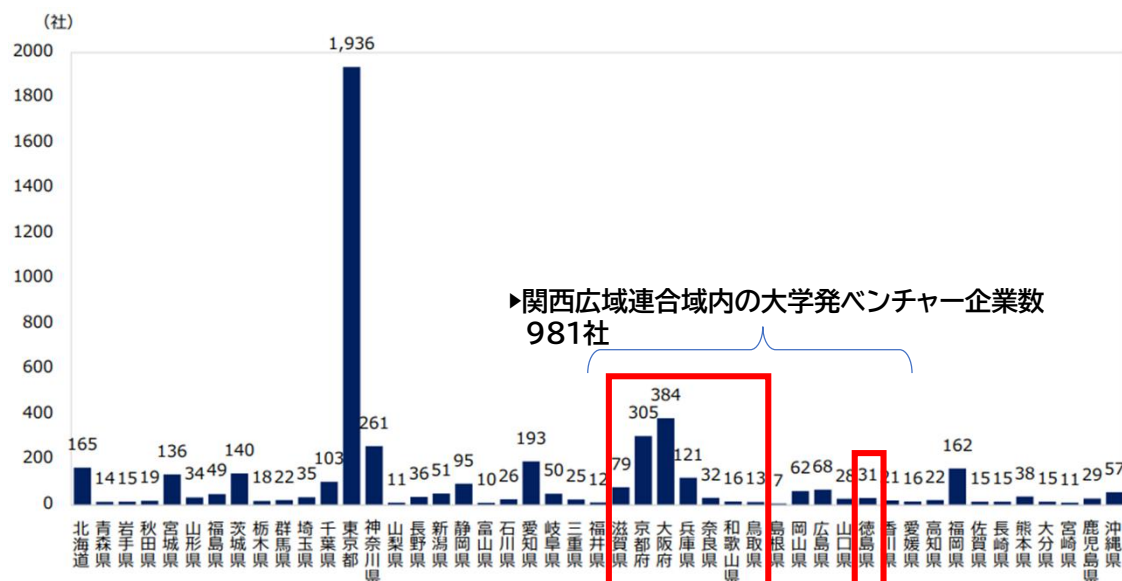
地域別大学発ベンチャー数

地域区分	2022年度	2023年度	2024年度	対2023年度比
北海道・東北	320	379	432	114%
関東	1,950	2,265	2,708	120%
中部	252	279	304	109%
近畿	697	773	949	123%
中国・四国	226	247	268	109%
九州・沖縄	309	313	342	109%

地域別大学発ベンチャー数 構成比



都道府県別大学発ベンチャー数



【参考】 令和6年度技術開発調査等推進事業 大学発ベンチャーの実態などに関する調査 (経済産業省)

◆ 関西経済の概況

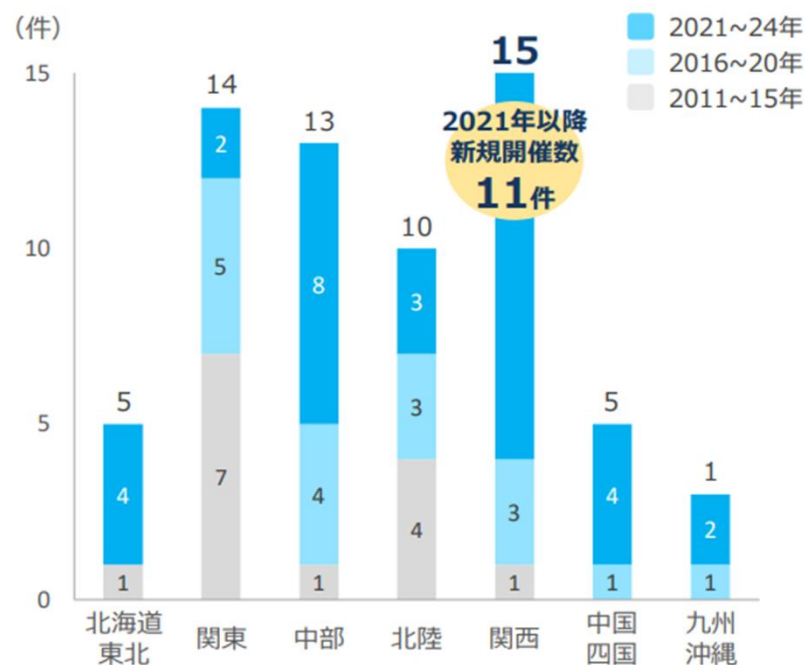
④ 地域一体型オープンファクトリー開催数

- ◆ 関西広域連合域内において16件 開催。（2011～24年）【内訳:関西2府4県:15件、徳島県:1件】
2021年以降、大阪・関西万博との相乗効果を見据え、特に関西圏において新規開催数が増加。

▶ 地域一体型オープンファクトリー とは

ものづくりに関わる中小企業や工芸品産地など、一定の産業集積が見られる地域を中心に、企業単独ではなく、地域内の企業等が面として集まり、生産現場を外部に公開したり、来場者にもものづくり体験をしてもらう取組

エリア別初回開催年別地域一体型オープンファクトリー開催数※1



関西(15件) 中国・四国(うち徳島1件)

DESIGN WEEK KYOTO	京都府	こーばへ行こう！	大阪府
大正・港・西淀川オープンファクトリー	大阪府	開工神戸	兵庫県
大阪 靴と皮革の祭典 O-Round	大阪府	CRAFT VILLAGE	兵庫県
FactorISM	大阪府	もっぺん	兵庫県
泉州オープンファクトリー	大阪府	TOYOOKA OPEN WALK	兵庫県
不器用FACTORY	大阪府	よしのウッドフェス	奈良県
ワークワクワク河内長野	大阪府	和歌山ものづくり文化祭	和歌山県
だいたいオープンファクトリーCONTACT	大阪府	来て見てみい、徳島。	徳島県

【出典】 地域一体型オープンファクトリーの可能性～地場産業の新たなビジネスチャンスの創出と持続可能な発展～/日本政策投資銀行関西支店レポート

◆ 関西経済の概況

⑤ 関西圏域の転出入状況

- ◆ 関西からの転出超過が続いており、転出超過の大部分は東京圏に対するものとなっている。
北海道・東北、九州・沖縄、北陸・中国・四国（鳥取・徳島除く）からは転入超過が続いている。

外国人含む総数 (単位：人)

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
総 数	▲ 11,267	▲ 6,452	▲ 8,603	▲ 6,407	▲ 6,983	▲ 5,092
内訳						
東京圏（※1）	▲ 28,640	▲ 21,124	▲ 19,587	▲ 23,200	▲ 26,977	▲ 27,364
関東圏（東京圏除く）	▲ 2	▲ 331	▲ 51	▲ 137	▲ 592	▲ 96
名古屋圏（※2）	1,697	2,905	765	3,370	2,819	3,621
中部圏（名古屋圏除く）	469	524	▲ 312	375	1,044	302
北海道・東北	1,714	925	890	1,652	1,737	2,370
九州・沖縄	3,512	2,376	1,451	1,506	2,646	2,884
その他（※3）	9,983	8,273	8,241	10,027	12,340	13,191

日本人のみ (単位：人)

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
総 数	▲ 12,834	▲ 8,140	▲ 9,827	▲ 8,670	▲ 7,206	▲ 4,810
内訳						
東京圏（※1）	▲ 28,507	▲ 21,289	▲ 19,624	▲ 21,852	▲ 24,354	▲ 23,918
関東圏（東京圏除く）	150	▲ 17	133	152	55	270
名古屋圏（※2）	945	2,092	922	2,550	2,052	2,200
中部圏（名古屋圏除く）	305	339	30	491	1,100	734
北海道・東北	1,857	768	620	1,423	1,643	2,181
九州・沖縄	3,188	2,042	723	796	1,971	2,192
その他（※3）	9,228	7,925	7,369	7,770	10,327	11,531

（出典）総務省「住民基本台帳人口移動報告」

（※1）東京圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
（※2）名古屋圏：岐阜県、愛知県、三重県
（※3）その他：北陸、中国、四国（鳥取県、徳島県を除く）

- ◆ 対東京圏では10歳未満、50代及び60代以外の年代は全て転出超過、20代の転出超過が最も多い。

2024年 関西圏における年代別転入超過数

年代	計	0～9歳	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90歳以上
総計	-5,092	534	5,691	-10,771	-1,420	426	856	160	-277	-202	-89
うち東京圏	-27,364	216	-1,288	-23,771	-2,978	-278	615	994	-166	-487	-221

(単位：人)



(単位：人)

【データ】第2期関西創生戦略に掲載されているデータ等の最新状況/関西広域連合

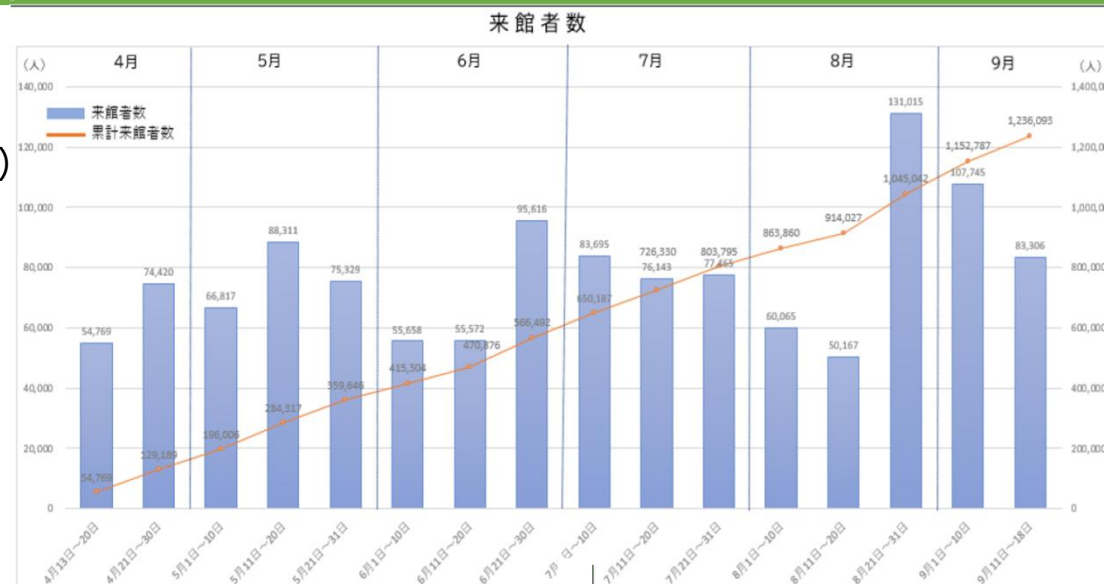
◆ 万博を契機とした関西の取り組み

【Ⅰ】 関西パビリオン来場者数

■ 9月18日まで（159日間）の来館者数
1,236,093人（万博全体の来場者数の約5%）

■ 展示エリアの平均来館者数（1日当たり）
4,137人

■ 展示エリアの平均収容率
91.9%
※展示エリア定員：4,500人



【Ⅱ】 経済交流・産業振興につながる取り組み

■ アクションプランにかかげる下記分野について、万博を契機とした経済交流や産業振興につながる取組の実態を把握。

【対象分野】 ライフサイエンス、カーボンニュートラル、スタートアップ、次世代モビリティ、ものづくり中小企業
※複数の分野に関連する場合は、主な分野で集計
※全ての分野が対象となる場合や分野の選択の判断が難しい場合は、「全分野」として集計

【調査方法】 各構成府県市が主体的に実施したイベントや、関係機関と協力して取り組んだ内容中心に、取組の実態調査を実施。

【調査期間】 令和7年7月中旬～8月末

【取組み抽出基準】

（期間）

- ・万博開催期間中(4月13日～10月16日)に実施、または実施される予定の取組
- ※上記期間を含む通年開催等で実施されている場合も対象。

（場所）

- ・万博の会場内または会場外(関西広域連合域内)において、実施または実施される予定の取組

（取組内容）

- ①各構成府県市の幹部職員等と国内外の団体等との経済交流や産業振興にかかる会談が行われた交流会等
- ②域内企業と国内外の企業・団体との商談機会につながる展示会、セミナー、フォーラム等のBtoBイベント
 - ※BtoBイベントについては、構成府県市が主催・共催したものを中心に、各団体の幹部職員等が出席し、挨拶や施策紹介等をされた場合も対象。
 - ※後援のみの取組については、対象外。

◆ 万博を契機とした関西の取組

(R7.9.29時点)

【Ⅱ】 経済交流・産業振興につながる取組

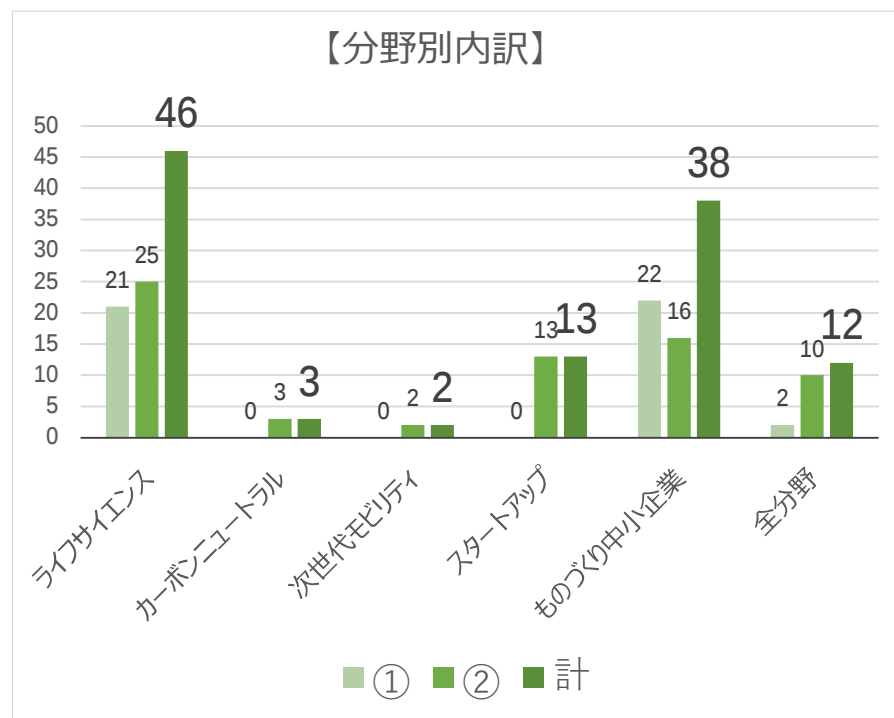
(取組内容)

- ①各構成府県市の幹部職員等と国内外の団体等との経済交流や産業振興にかかる会談が行われた交流会等
- ②域内企業と国内外の企業・団体との商談機会につながる展示会、セミナー、フォーラム等のBtoBイベント

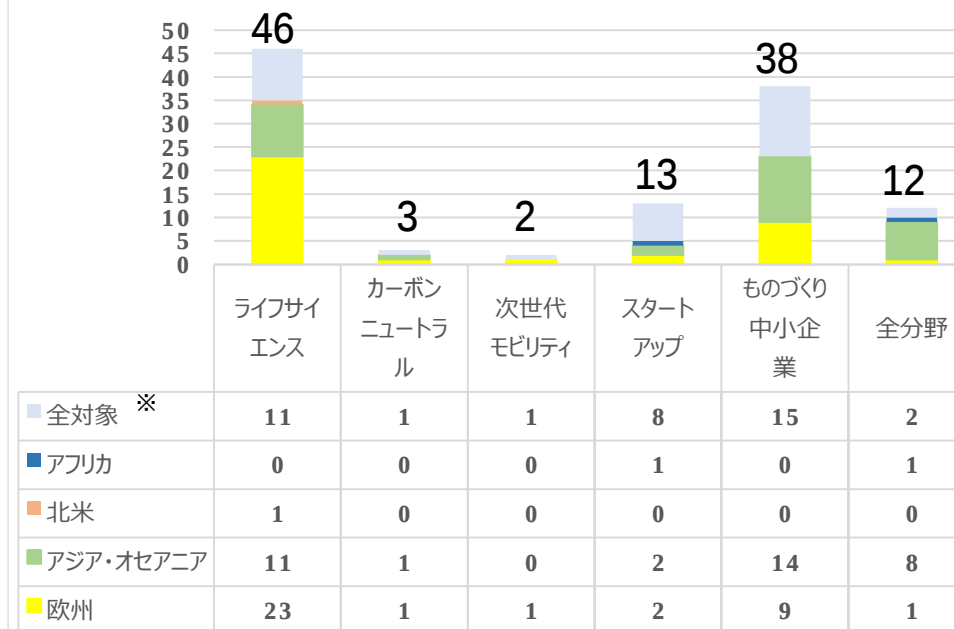
【調査結果概要】

- ・構成府県市の自治体が、関西広域連合域内において主体的に関与した取組が114（実施予定含む）。
- ・ライフサイエンス分野の取組が最も多くなっており、特に各国の政府関係者や企業団等が、万博開催地である大阪の未来医療国際拠点（NakanoshimaQross）を視察し、活発な意見交換が実施。
- ・またものづくり中小企業においても、開催期間を通じて関西圏の有望な先端技術を有する多くの企業を広くPR。
- ・スタートアップについても、国際的なイベント（GSE）が初めて関西で開催され、域内のスタートアップを国内外に発信。

【分野別内訳】



【交流相手国・地域別内訳】



※ 特定の国・地域との経済交流ではなく、国内外のビジネス関係者と広く交流が実施された取組

◆ 万博を契機とした関西の取組（構成府県市が主体的に関与した取組）

各分野別の主な取組

ライフサイエンス	欧州の政府関係者、また再生医療分野の研究所等の研究員による、未来医療拠点（NakanoshimaQross）等への視察、将来的な連携も視野に入れた意見交換を多数実施。アジア・オセアニア圏ではインド、オーストラリア、タイの政府・医療関係者が多い。また、イタリアの政府関係者による健康・長寿をテーマとしたセミナーも万博会場内外で活発に開催され、関西の産業等についても積極的にPR。
カーボンニュートラル	ドイツやカナダなどサークュラーエコノミーやエネルギー関連ビジネスにかかる大規模なセミナーや展示会において、域内ビジネス関係者との交流。
次世代モビリティ	万博会場内にて、イギリスをはじめ、国内外の関連事業者同士の交流を図るセミナー、イベント等が実施。
スタートアップ	インド、韓国、ポルトガル、ラトビア、アフリカ等のスタートアップと、域内企業とのマッチングや協業の促進を目的としたイベント等の実施。また大規模な国際イベント（GSE）に來日する海外投資家と域内スタートアップとの交流も積極的に実施。
ものづくり中小企業	タイ、台湾など東アジアを中心とするの有力企業や政府関係者等が万博会場内の域内企業の先端技術等の展示を視察、今後の連携等について意見交換を積極的に実施。また、海外企業等のニーズに応じた域内企業の視察を支援する取組も、実施。先端技術のほか、伝統工芸品についても、国内外へ発信するため万博会場内で展示会等イベントを実施。

各構成府県市の主な取組

滋賀県	万博開催期間中、海外から來日されるビジネス関係者と県内企業とのビジネス交流やネットワーク構築を図るため、海外企業等のニーズに応じた県内視察先を提案する相談窓口を設置。
京都府	けいはんな地域及び万博会場内にて、「ロボット・アバター・ICT」「ウェルビーイング」「スタートアップ」「サイエンス&アート」4分野のイベントを開催し、ビジネス、研究開発等について、情報発信やマッチングを実施。また京都市内においても企業やスタートアップとの交流を図るプログラムを実施。
大阪府	大阪ヘルスケアバピリオンにおける「リボンチャレンジ」にて、先端技術を有する多くのものづくり中小企業のPR。またライフ、カーボン、次世代モビリティ、スタートアップの各分野においても、会場内外で各国の政府関係者及び有力企業と府内企業との交流が積極的に図られるイベント等を実施。
兵庫県	中国各地域とのライフサイエンス分野におけるビジネスマッチングの実施。 アフリカ地域をはじめ韓国、ポルトガル、ラトビアなどスタートアップとのビジネスマッチングイベントを実施。
奈良県	スタートアップ等の新たな製品・サービスの導入により行政課題を解決するため、奈良県・奈良県内の市町が登壇し、スタートアップ等との共創により解決を目指す課題を発表。
和歌山県	万博会場内にて、「持続可能な産地づくり」をコンセプトに、県内の「食」や「ものづくり」等の伝統文化を体験できるイベントを実施し、産業について世界へ発信。
徳島県	大学発のディープテックスタートアップが現在抱える課題等にかかるフォーラムを万博会場内、徳島県内で実施。またGXをはじめ、先端技術を用いたものづくりの可能性について発信するイベントを実施。
鳥取県	万博会場内にて、県内の事業者（16社）の技術・製品の展示により県内産業技術を紹介。また、タイを代表するグローバル企業をはじめ、タイに拠点を置く商業銀行のなどの要人が来県し、知事や地元経済団体の代表との意見交換のほか、現地視察を実施。